

歯学部附属歯科技工専門学校
令和4年度自己点検・評価及び学校関係者評価票

令和4年度 自己点検・評価項目	自己点検・評価結果 (現状説明, 長所・特色, 問題点, 全体のまとめ)	取組 評価	学校関係者評価				
			自己点検・評価結果 への意見等	優れている点, 継続 してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
<p>評価項目① 資格取得等に関する指導体制, カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか。</p>	<p>① 現状説明 歯科技工士国家試験の学説試験対策として第3学年時に, 4月下旬から中間試験を8回, 全国歯科技工士学校協会及び医歯薬出版主催の模擬試験を2回受験し, 国家試験対策を行っている。また, 中間試験及び模擬試験の成績不振者を対象に補習を行っている。</p> <p>② 長所・特徴 中間試験及び模擬試験の実施により, 教員及び学生間で歯科技工士国家試験の出題傾向を把握できる。</p> <p>③ 問題点 歯科技工士国家試験合格率が低下している。</p> <p>④ 全体まとめ 今後, 問題作成のための研修会を実施する。また, 中間試験について, 問題作成方法, 出題の妥当性, 評価方法等の見直しを実施していく。</p>	A	<p>・歯科技工士国家試験の学説試験対策は, 数名の成績不振者の底上げが課題だと思う。</p> <p>・成績不振者に対しても適切に補習を行っている様子であった。授業見学の際は国家試験対策の実技研修を行っており, 学生も十分に理解していた様子であった。</p> <p>・成績不振者の補習は, 特に国家試験直前に集中して少人数で指導を行うことが必要だと思われる。特に分からない問題などは, どこが分からないのか質問などして理解を深めるような指導方法を考え, 成績不振者も自信を持って国家試験に臨めるように自信を付けさせてもらいたい。</p>	<p>・中間試験, 模擬試験を行い成績不振者の補習は合格率を上げるためにも継続していただきたい。</p> <p>・教員が歯科技工士国家試験の出題傾向を把握しており, 学生の指導に当たっていた。歯科技工士国家試験合格率の低下に対する対策も教職員間で協議している様子であった。</p>	<p>・国家試験の学説試験の傾向を分析し, 対策を立て会議で協議してもらいたい。</p> <p>・中間試験において, 基本問題と応用問題の出題の時期を検討していただきたい。</p> <p>・中間試験の問題作成時, 各科目で作成した問題を全体でブラッシュアップしていただきたい。</p> <p>・出題者は, 過去問題以外にオリジナル問題を作成できるようにしていただきたい。</p> <p>・国家試験に焦点を合わせたカリキュラムだけでなく, 卒後に少しでも早く仕事に慣れるように, 臨床科目も増やしてほしい。</p>	<p>・第3学年では全員で国家試験に合格するという目標に向けて動機付けを行い, クラス全体の雰囲気作りをしていただきたい。</p> <p>・受験に対する勉強の仕方の分からない学生などに助言していただきたい。</p> <p>・成績不振者が自信を持って国家試験に臨めるようにサポートしていただきたい。</p> <p>・最終目的の一つとして, 歯科技工士国家試験合格があるため, 合格率の低下解消に更なる注力を願いたい。</p>	A
<p>評価項目② 学生の生活環境への支援は行われているか。</p>	<p>① 現状説明 毎月(8月除く)1回, 教員会を開き, 各クラス担任から学生の出欠席について確認を行い, 欠席理由の確認をはじめクラス担任の対応や保証人との連携等について協議している。また, 就業している学生には, 繁忙期で授業に遅れが生じた場合, 授業時間外に補習を行うなどの対応している。</p> <p>② 長所・特徴 夜間課程のため, 様々な環境の学生が在籍している。</p>	A	<p>・不登校等の学生は, 人間関係, 講義・実習の遅れ, 金銭的問題その他の理由で意欲の低下が招く結果だと思われる。</p> <p>何が原因で不登校等になるのか, 学生の話をよく聞くことにより学生自身も自分の気持ちが整理できるようなと思われる。ひいては, 教員との信頼関係につな</p>	<p>・教員会でクラス担任からの出欠席の状況報告は, 情報を共有化していく上でも続けていただきたいと思う。</p> <p>・学生個々の諸事情にも配慮し, 対応している様子であった。</p> <p>・授業見学した状況では学生との信頼関係も構築されていると感じた。学生数が少ないことは残念だが, よ</p>	<p>・教員は諦めずに粘り強く学生に接する必要があると思われる。そして, 教員が学生に対して「あなたのことはいつも見守っています」という姿勢を持つこと必要と考える。</p> <p>・大人しい学生や教員とあまり話さない学生等には, 声掛けをして「私を意識してくれている」と感じてもらうことにより学生と</p>	<p>・教員と学生とが1対1で面談する機会を増やし, 教員と学生が話しやすい雰囲気作りをしていただきたい。</p>	A

	<p>③ 問題点 入学前の不登校、退学経験者等への個々の諸事情に配慮した対応に苦慮している。</p> <p>④ 全体のまとめ 今後、学生の動向は教職員間での逐一正確な情報共有が必要であるため、学生の動向把握に努める。問題があれば、保証人と協力し解決のため善処していく。</p>		<p>がると思われる。 ・不登校等の課題のある学生には適切に連絡を取り、対応している様子であった。</p>	<p>り学生に寄り添うことができる環境は大きな利点と考える。</p>	<p>の信頼関係が少しずつ築き上げられると思われる。 ・夜間課程の学校のためなので、学生はそれなりの志を持っていると思うので、個々に寄り添った教育ができると更に個々の能力が向上すると思う。 ・残念なのは、教職員の負担が大きいように感じた。</p>		
<p>評価項目③ 学生の募集活動は適正に行われているか。</p>	<p>① 現状説明 随時、学校見学者を受け付けており、教職員で見学者の相談を受け、実際の授業を見学できるよう対応し、入学までの不安を取り除けるように努めている。また、オンラインでの相談に対応できる環境を整備し、SNSを利用し学校生活の様子を配信している。</p> <p>② 長所・特徴 昼間の時間は自由に活用できるようなという夜間課程の利点と歯学部附属という長所がある。</p> <p>③ 問題点 社会人に向けた情報発信 CAD/CAMシステムの設置台数が少なく、古いため、学校見学者からCAD/CAMについての質問が多く、機器が充実していないことが指摘される。</p> <p>④ 全体のまとめ 今後も専任教員による高等学校への連絡及び訪問を継続する。また、学校案内リーフレットを作成し、付属歯科病院へのリーフレットの設置や、社会人への情報発信のためSNSの更新機会を増加させる。</p>	<p>B</p>	<p>・学生の募集に関しては、歯科業界の問題も影響していると思われるので難しい問題でもある。 ・やりがいを感じられる職業ではあるが、金銭的に将来にわたり生活設計ができるか不安があるなどの意見を聞くことがある。 ・学校紹介の際には歯学部附属という環境をアピールできると思う。昨今のデジタル化への対応も進めつつあると聞いている。高等学校への学校訪問についても報告があった。</p>	<p>・現在、実施している学校見学者の対応、オンラインでの相談、進学相談会、高等学校への訪問及びSNSの発信などは今後も継続していただきたい。 ・科目等履修生制度の活用について積極的に取り組んで従来の専門学校とは違う利点をアピールできていると評価している。</p>	<p>・社会人に向けての情報発信は、社会人での総合型選抜の導入を考えてみてはどうか。 ・総合型選抜の出願要件として、本校への入学を強く希望し、合格した場合は入学を確定できる者とするのはどうか。 また、選考方法は、面接のみ、などの条件とするのはどうか。 ・技工士学校の知名度が低いと聞いている。改善策として、実際に就職している若手技工士を活用し発信をしてみてもどうか。 ・東京都歯科技工士会のデジタルセミナーなどを活用してみてはどうか。</p>	<p>・一般選抜が3月上旬に終了していますが、数回増やしてはどうかと思う。</p>	<p>B</p>

<p>評価項目④ 【重点目標】 授業評価の実施・評価体制について。</p>	<p>① 現状説明 学生による授業評価アンケートの集計結果を基に、授業の改善、シラバス作成及び学生指導について、教学IR専門委員会にて協議している。</p> <p>② 長所・特徴 グーグルフォームを用いメールにてアンケート調査を行っている。欠席の学生にもメールで実施できる特徴がある。 簡単にデータ化できるICT (Information and Communication Technology) を活用することにより教職員間で改善事項の情報共有も容易となった。</p> <p>③ 問題点 授業評価アンケートから得られる情報に不十分な点がある。また、より効果的な活用方法の検討が必要である。</p> <p>④ 全体のまとめ 今後、アンケート集計結果を学生に公表する。 また、授業担当者へフィードバックし、改善計画書の提出を求め、今後の授業に生かしていくよう検討している。</p>	A	<p>・授業担当者は、授業評価アンケートの集計結果を認識し、次年度の授業改善に生かして、学生が興味を持つような授業にしていきたいと思う。 ・現状について説明があり、学生からの意見などについても教職員間で共有されているようであった。</p>	<p>・授業評価アンケートの集計結果を、教学IR専門委員会で役立っていることは継続していただきたい。</p>	<p>・授業評価アンケートに答えている学生の総人数が全体的に少ないように感じる。 アンケート項目の見直しを行ってみてはどうか。 ・学生の意見を尊重し学生が受け入れやすい授業形態にしていくことも必要とは思いますが、学生指導の在り方については、今後も協議していくことが必要ではないか。</p>	<p>・教員同士の情報の共有化は物事がスムーズにいくためにも非常に重要であると思われる。</p>	A
---	--	---	---	--	--	--	---